

ジャパンビューティプロダクツ

提案バリエーションがさらに増加
全社二丸のもののづくり体制構築へ



高木社長

ジャパンビューティプロダクツは、クリーンビューティに対応するノンケミカルUVや、まつ毛美容液、二重まぶた形成剤など得意分野の処方開発を推進して提案のバリエーションを増やしている。新規開発処方方は、展示会出展やメルマガ配信などを通じて情報発信を強化し、OEM事業の成長につなげている。

2025年3月期は、実績豊富なスタイリング剤の受注が堅調に推移し、成長持続に向けて「得意分野の提案処方バリエーションを増やしながら、新しいことにも積極的にチャレンジしていきたい」と高木社長は語る。目まわり製品では、設備投資を行い、生産・供給の安定化を図り、顧客対応を強化していく。

得意分野の拡張に向けては、未開拓領域の製剤開発・提案を強化する。展示会や日々の営業活動を通じて得た情報を精査し、マーケティングに活かして開発を進める。高木社長は「Z世代向けの製品企画も増えている中で、過去の開発製剤にも興味を持っていただけのことだった。開発製剤の見直しを進め、今の時代やニーズに合ったコンセプトに変え、ワクワク感のある製品を生み出していきたい」と話す。

新たな取り組みでは、全従業員を対象にアイデアコンテストの企画を実施する。製品化につながることを目指した取り組みだが、高木社長は「社内風土の醸成につながっていくことを期待したい」と語った。製造業の人手不足が深刻化している中、福島にある工場では2020年からパート

社員の離職率ゼロが続いており、「とてもありがたいことだ。当社を気に入って働いてくださっているパート社員の方々にもしっかり参加してもらい、もののづくりに興味を持てる環境を整えていきたい」と話す。今期は中期経営計画の最終年度を迎える。高木社長は「各部署からメンバーを選出し、中計策定プロジェクトを立ち上げて進めている。まずは2030年どのような会社でありたいかについて、経営層だけでなく社員たちと一緒に考え、成長につなげていきたい」と意気込みを語った。